

平成26年度 病害虫防除技術情報 第4号

平成26年7月1日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

中山間地域における白ネギべと病の防除対策について

県の中山間地域で夏秋ネギを中心にべと病が多い状況です。今後の気象条件は、低温多湿と予想されており、本病の発生に好適な条件が続くと考えられます。特に7月中下旬までは梅雨時期に当たるため、重要な防除時期になると考えられます。そのため、既に発生している圃場のみでなく、まだ発生していない圃場でも速やかに防除を徹底してください。

1. 発生の状況

6月中下旬の巡回調査では、発生圃場率は高く、発病株率は平年並であった。

発生圃場率 : 62.5% (平年 27.2%、前年 0.0%)

平均発病株率 : 6.5% (平年 6.8%、前年 0.1%)

県北部の平坦地の産地でも本年は5～6月にかけて、発生圃場率、平均発病株率ともに高く推移している。

2. 防除上注意すべき事項

- (1) 発生が見られない圃場も既に病原菌が感染している可能性が高いため、まずは治療効果の高い薬剤を散布した後、予防剤（保護殺菌剤）を中心とした、系統の異なる薬剤によるローテーション散布を行う。
- (2) この時期の散布は、曇雨天時を避け、薬剤が速やかに乾く晴天時に行う。
- (3) ネギは薬剤が付着しにくいので、必ず展着剤を使用し、株元にも十分付着するよう散布する。
- (4) 排水対策を施すとともに、適正な肥培管理に努める。
- (5) 使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。なかでも同一成分を含む薬剤を連用しないように心掛ける。

(ホームページアドレス <http://www.jpnp.ne.jp/oita>)